

令和5年度 項目別の自己評価表

1. 学校の教育目標

キャリア教育・職業教育と人間性の涵養に努め、一人一人の自立を目指す。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

自立した人間性を育成し意識の向上につとめ、自らの考えを提案できる機会を作り自主性を高められるよう、取り組みを行う。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 創学の精神「自立」と「清く・正しく・美しく」の教育理念は実行されているか	4	3	2	1
・ 職業とキャリアを重視した教育がなされているか	4	3	2	1
・ 専修学校が社会に於ける役割を認識しニーズに応える学校づくりに努めているか	4	3	2	1
・ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	3	2	1
・ 専門教科に重点を置き、併せて一般教科・特別教育活動をして専門業界の即戦力となる人材の育成に努めているか	4	3	2	1

① 成果と課題

成果としては、コロナ禍によって延期となっていた創立100周年記念式典を改めて103周年記念式典として開催し、創立からの歴史をたどる展示やムービーなどによって、創学の精神「自立」と「清く正しく美しく」の理念が学生・保護者ともに広く周知されたことである。また地域社会からの要請に応じて、一般講座なども広く行った。

課題としては、職業とキャリアを重視した教育という点に於いて、卒業時までには就職が決まらない学生がいたことは、職業とキャリアを見据えた教育が徹底されなかったとして改善を要する点である。

② 今後の改善方策

次年度はキャリア教育という点に於いて、教養学の分野を強化していく。カリキュラム・シラバスに記載されている通りに進めるとともに、自分の考えを言語化し、他者に伝える能力を強化する実践授業を取り入れ、将来の就職活動に役立てる。

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 校務分掌役割の確認と責任の遂行はなされているか	4	3	2	1
・ 事業計画を綿密に立て、共通理解で運営されているか	4	3	2	1
・ 運営組織や意思決定機能は毎朝の職員会議等で諮られて納得して十分機能しているか	4	3	2	1
・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	3	2	1
・ 業界や地域社会と密接な信頼関係が確立されているか	4	3	2	1

・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
----------------------------	---	---	---	---

① 成果と課題

成果としては、昨年度と同様に、校務分掌の整備を着実に進めている点である。カテゴリの細分化、組織図における役割を明確化することを、総務部を主体として行い、更にカテゴリごとの小会議を都度行うことによって、着実な業務の遂行を目指した。

課題もまた同様に、校務分掌整備がまだ完全とはいえないことである。

② 今後の改善方策

改善の方法としては、校務分掌の整備を更に進めていくとともに、各係で行うべき業務を明示し、適切なスケジュール配分を行っていく。また、昨年導入しているグーグルカレンダーなど、各部各係の業務をスリム化できるツールを徐々に検討・導入し、各自がスムーズに業務にあたれるよう環境を整備する。

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
・ 業界のニーズに十分応えるレベルに到達する教育と時間の配分が明確にされているか	4	3	2	1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されキャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携事業）は体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
・ 授業評価・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
・ 人材育成目標達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1

① 成果と課題

成果としては、関連分野の企業や教育課程編成委員会との連携により、カリキュラムの内容が吟味され、時代に沿った内容になったことである。これによって新パーソナルカラー検定が導入され、資格取得に対する指導体制も整えられた。

課題としては、昨年同様、人材育成の目標を達成するための要件を備えた教員の確保である。策定されたカリキュラムに沿った授業を行うことができる教員は備えているが、より実務的な知識・技術を備えた教員ないし講師の確保は、今後の上進には必須になると目される。

② 今後の改善方策

改善方策としては、教員・講師の確保とともに、更なる研修の磨き込みが挙げられる。必要なスキルを備えた教員と講師を募集、適時配置し、常勤の教員にも日々進化する服飾業界の現状や最先端の技術を学ぶ研修を実施する。それを授業に実践的に落とし込んでいくことで、目標とす

る育成人材像に近づけていく。

(4) 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 就職率の向上が図られているか	4	3	2	1
・ 資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
・ 退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍や卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

① 成果と課題

まず成果として、資格取得率の向上が挙げられる。ファッションビジネス能力検定、ファッション販売能力検定とも、昨年度よりも合格率が向上した。また、初めての実施となったパーソナルカラー検定でも合格率が90%を超え、資格取得率の向上が図られた結果だといえる。

課題としては、就職率の低減、退学率の向上が挙げられる。就職率に於いては卒業時に就職先が決定していない未定者がいたため、就職活動の促し方を再考する必要がある。退学率に関して、担任教員やその他生活指導教員などによる個人面談が適宜行われたが、結果としては退学率の低減に至らなかった。

② 今後の改善方策

改善に向けて、就職率に関しては、就職を希望する学生に対し、今までは紙ベースで学校に郵送されてきた求人票などを開示していたが、今後はグーグルクラスルームなど関係者のみが入室できる、一種閉じられたネット上で資料を開示し、移動中や自宅などでの空いた時間にも求人票を確認できるようツールを整えていく。

退学率については、学生本人の修学へのモチベーションを維持させる事を第一として、本人の悩みや課題点を聞き出し、一緒に解決にあたることができるよう努めていく。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 進路・就職に関する指導・支援は行われているか	4	3	2	1
・ 学生相談に関する体制が整備されているか	4	3	2	1
・ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・ 保護者会と適切に連携しているか	4	3	2	1
・ 卒業生へのニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
・ 中学・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

① 成果と課題

成果としては経済的な支援体制が学生にわかりやすく周知されたことである。高等教育修学支援制度、いわゆる高等教育無償化が始まって4年程度が経過し、保護者・学生にも広く知られるようになったものの、本校が認定校であることや、どの程度の支援が受けられるかが明文化された資料が少ない状態だった。学校ホームページの学費のページに支援される金額などを細かく明記したことで、家計に悩む学生の一助とした。

課題としては、学生相談に関する体制が整えられていたものの、今一つ活用されなかった点である。

② 今後の改善方策

学生相談については、校務分掌による担当の教員を広く周知し、相談しやすい環境づくりに努めていく。また気軽に訪れることができる職員室の雰囲気づくりに注力し、学生が気軽に相談できる空気感を作る。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
・ 防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 成果と課題

成果としてはインターンシップの充実がある。ファッションクリエイトコースの3年次のインターンシップで新たに東和株式会社を加えられ、例年のインターンシップとは違う服飾資材、機材などに触れたことは学習の上で大きな一助となった。

課題としては、施設・設備の整備が挙げられている。昨年度の課題と改善を踏まえて校内の設備機材の扱い方の共有はなされたが、座学の授業や講演などで更に機能を活用できるよう、設備機器のハード面だけではなく授業内容のソフト面も強化する必要がある。

② 今後の改善方策

今後の改善に向けて、教員間で使用できる設備機器の機能を再共有し、授業内容や伝えたい事柄、効果的な仕様についてそれぞれに工夫を図っていく。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
・ 高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が積極的に行われているか	4	3	2	1
・ 学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
・ 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報や教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
・ 学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

① 成果と課題

成果としては、学生募集に関する事柄が挙げられる。パンフレットを一新し、資格取得の状況がわかりやすく明示された。

課題としては、あえて挙げるとすれば学納金が妥当なものか保護者から指摘があった点がある。また学生からも学納金が適当ではないと認識している層がいることも判明した。

② 今後の改善方策

今後の改善としては、学納金の金額の検討が挙げられる。学納金=学費のみなのか、学納金=学費及び材料費なのか、あるいは学納金=学校に支払っている総額なのかといった解釈のずれもあることを前提として、どの部分に於いて妥当ではないと判断したのかを掘り下げる必要がある。学費のみであった場合は学則などの規則があるため改定することは難しいが、材料費などであれば学校購買の品揃えの幅を増やすなどの方法で代替することが可能である。何をもって保護者と学生がそう判断したのか、慎重にヒアリングを行う必要がある。

(8) 財務

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

① 成果と課題

事業内容等も含めた財務情報について最新の情報公開を行う。

② 今後の改善方策

解り易い財務の情報公開を行い、安心して入学、学修する資料とする。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
・ 自己評価の実施と問題点の改善を行い、自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

① 成果と課題

自己評価等の実施を積極的に行い、改善点を明確にしていくとともに、個人情報の扱いに関しては更にセキュリティを強化するなどして対策を行う必要がある。

② 今後の改善方策

自己評価結果に基づいて、改善し最新の情報公開を行う。また、学内で用いられている様々な媒体に於いて個人情報の取り扱いを慎重にし、既存のものよりも強力なセキュリティソフトの導入、パスワードやロックなどのセキュリティ対策を十全に行う。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 学友会のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
・ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 成果と課題

成果としては、いわき市での水害に際し、学内呼びかけにより水害の処理活動に用いるタオルやブランケットなどの寄付を集めた。140サイズの段ボール2箱分のタオルやブランケットを被災地に送付した。課題としてはそれ以上のボランティア活動が行えなかったことである。

② 今後の改善方策

今後の方策としては、災害のみならず、地域の美化活動など日常的な活動からボランティア活動に取り組むよう、学友会と協同して奨励していく。

(11) 国際交流（必要に応じて）

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 留学生の受入れ・派遣に積極的に取り組んでいるか	4	3	2	1

① 成果と課題

課題として、前年度に引き続き留学生の受け入れ、また留学生としての派遣が今年度なかったことが挙げられる。

② 今後の改善方策

積極的に多言語での情報発信に取り組み、留学生としての派遣なども検討する。また、留学の目的をしっかりとって経済的にも不安なく学べる人材を受け入れる努力をする。